

令和3年度 第3回 国産材の安定供給体制の構築に向けた 九州地区需給情報連絡協議会 議事録

- 1 日 時：令和4年1月24日（月）13:30～15:00
- 2 場 所：ウェブ会議（Zoom）
- 3 出席者：別紙のとおり
- 4 議事次第及び配付資料：別紙のとおり
- 5 概 要

（1）冒頭挨拶

○九州地区需給情報連絡協議会 林 会長（(株)伊万里木材市場 代表取締役）

本日はお忙しい中、第3回九州地区需給情報連絡協議会にご参加いただき誠にありがとうございます。会長を仰せつかっております、林雅文でございます。

令和4年がスタートいたしました。本年が皆様にとって、また林業木材産業にとって素晴らしい年となりますようお祈り申し上げます。本来であれば今回の会議は、対面での会議として行うように計画しておりました。しかしながら、残念なことに年頭以降の新型コロナウイルス感染症の爆発的な拡大傾向により前回同様リモートでの開催となりました。

しかし、リモート開催も最近は慣れてきて活発な意見が出るようになってきたと思います。本日も皆様方の活発なご意見に期待しております。

昨年のウッドショックの影響も残る中、我々の業界は少しでも高く製品価格・原木価格を維持しながら少しでも多くの木材を活用していただくことで山側への還元や森林整備を促進し循環型社会つまるところ持続可能な社会を実現していかなければなりません。

幸い、ウッドショックを機に需要者の国産材に対する意識が『安かったから使う』から『必要な一定量は国産材を使う』に変化してまいりました。これから、我々はこの機運を更に盛り上げ国産材の需要を更に拡大していく必要があります。

本日はそのために我々は何をなすべきなのか、ということをご意見を伺っていただき実践していかなければなりません。皆様からの積極的なご意見を期待しております。本日はよろしくお願い申し上げます。

（2）議事

○NPO法人 活木活木(いきいき)森ネットワーク 遠藤 理事長（以下、座長）

本日、議長を務めさせていただきますNPO法人活木活木森ネットワーク理事長の遠藤日雄でございます。本日、多数のご出席をいただいておりますがご紹介に関しては名簿をもってかえさせていただきます。それでは議事に移ります。まず国産材の需給状況について、前回の会議では木材価格は高止まりしつつも入手はできるようになっている。しかし、昨年秋以降は合板不足が顕著になってきている状況でございました。

では、おおむね四半期を経過した現在はどうなのか関連資料を含めて林野庁よりご説明をお願いいたします。

○林野庁 木材産業課 永島 課長補佐

資料1～3及び参考資料について説明。

○遠藤 座長

説明ありがとうございます。自分から特に資料の1～3から参考資料に関してまとめますと輸入量に関しては若干回復傾向にあると思われれます。輸入材不足の端緒となった、米国製材品価格の高騰は先ほどでたグラフによればいったん下落したようですが再度上昇している

ようです。この状況は引き続き注視していく状況にあると思われる。

また、2021年11月にはカナダで集中豪雨が発生して内陸部から沿岸部への道路網が寸断され製材品および丸太の運搬が不可能となりカナダのサプライヤーが対日輸出をどのようにして実施するかという困惑した状況も一部報道により確認されております。

一方、国内においては輸入材・国産材共に価格は高止まりしております。木材加工・製材に関しては本状況のなかで高い稼働率を維持しております。また、統計には出ておりませんが2021年の秋から冬にかけて国内においては災害等もなくボトルネックとなっていた素材生産が比較的順調に推移したものと想定されます。

資料の1～3に関して林野庁より説明がありましたが、本資料に関して何か質問等ありませんでしょうか。

大丈夫のようですので次に進めます。次に全国的な状況と九州地区との違いを踏まえまして今回参加している委員より現状並びに見通しについて聞いていきたいと思っております。先ほどの林野庁説明にもありました通り、状況は二転三転し先行きは不透明です。いつどのような形で今回のウッドショックが結末を迎えるのかおそらくは多くの方々が見通しを立てることができない中で今回のような情報交換会が開催された意義は大きいものと感じております。

できる限り多くの情報を収集しながら今後に備えたいと考えておりますのでどうぞ積極的なご意見をお願い申し上げます。

前回、9月の情報交換会からどれほど状況が変化しているのか、またどのような部材が不足しているのか合板の確保状況はどうかという状況に加え新規の受注状況や価格の転嫁状況、木材調達の今後見通しと輸入材から国産材への代替状況について報告をいただきたいと思っております。

まず、川下の建築事業体よりお話をお伺いするようにいたします。

○(一社)日本木造住宅産業協会 九州支部 清水 事務局長

川下、建築より報告いたします。

住宅需要の方は旺盛のため。受注に関しても大変好調ではあるのですが、供給部分でまだ滞っている部分があり、合板関連が昨年末より足りなくなる状況になりました。

また給湯器や東南アジアで生産しているトイレ関連の部品等が不足していて引き渡しができない場合や引き渡しが遅れる状況が発生しています。

ヨーロッパ方面ではドイツメーカーの食洗器等がコロナの影響により入ってこないこともあり、国産代替品で対応しているという状況も起こっています。

合板不足の状況をお伝えしたが、こちらはコロナの影響で台湾の税関作業員が不足し、そのためコンテナは届いているけれども検品できない状況となってしまう、納材できないという事態が昨年末に発生しています。

○(一社)JBN・全国工務店協会 新町 監事

2021年末より、木材をはじめ建材が更に値上がりしております。これにより、見積もりが持って行き難い状況にあります。わたくし自身が宮崎に拠点を置いているのですが、地域内においては所得が低くローンが組めないといった事例も発生しております。

木材価格が上昇するのは仕方ない面もあるとは思いますが、できれば山に還元してほしいと思っています。

○全建総連九州地方協議会 池田 技術工務店対策担当書記

会員への聞き取り調査によれば、供給に関しては対応できている。しかしながら、価格は高止まりで見積もりに苦勞する状況が続いております。

新築の場合は先ほどお話がありました通り、給湯器が不足しております。リンナイ・ノーリツ・パロマいずれも不足しております。リンナイに関しては1～2か月納期待ちといった状況です。ノーリツは元来在庫を持たない主義でしたので、納期末定といった状況になっております。そういった面での苦勞があるとの意見が出ております。

○遠藤 座長

ありがとうございます。

続いては、建設と密接な関係にありますプレカットの立場からご意見をお聞かせいただけますでしょうか。

○原田木材株式会社 原田 代表取締役

2021年末から現在にかけて、木材の調達等はひと段落しました。欠品等もなく、生産加工を行っております。九州よりも関東・関西方面では合板不足が非常にタイトだという話を聞いております。

九州ではあまり長尺の耐力壁を使いませんので、何とかなっているのかなと思います。必要になった際は非木質系で対応できるのですが、関東・関西はそういった非木質系の材料もないということで九州に在庫がないかといった問い合わせも来ております。

先ほどお話ありました通り建材関係も値上がりが顕著になってまいりまして、例えば建材メーカーの大建さんからも部材が不足していることや建具関係が間に合わないであるとかの情報も来ております。

また、生コンが熊本エリアでは2,000円上昇するという事でおそらく住宅の基礎関係は50万円ほど値上がりするのではないかとわれております。

木材含めすべてのコストプッシュ要素を足せば、一年前と比べて最大で400万円ほどのコストアップになるのではないかと考えております。

住宅ローン控除に関しても、逆ザヤになっておりましたのでこの住宅ローン控除が昨年よりも小規模になっていくであろうことやコストプッシュ型インフレの影響で20~30代の若年層の施主さんにおいて中々ローンが組めない状況になるのではないかと考えております。

木材動向で申し上げますと、昨年12月は対前年同月比で同等程度となっております。それまでは、おおよそ10%ほど生産量を上回っておりました。1月についても昨年同等でありましたが2月は下がり始めました。

お客様のお話を伺いますと、来年の4~5月くらいからまた上棟が多くなるようなイメージがあります。パワービルダー等は6月までは計画的に家を建てていくと聞いておりますがどうしても注文住宅系は中休みといった感じではないかと思われれます。

モノがある程度見通しが立つまでは建て控えるといったようなお話も聞いております。

ヨーロッパ情勢ですが、フィンランドあたりでストライキがあり工場を閉鎖するといった情報もありますので今後ヨーロッパ材はどうなるのか3月積の木材先物も1,300ドル以上となっておりますが本日は1,100ドル弱ということでまた1,000ドルを超えておりますので今後どのような影響を与えるのか注視している状況でございます。

○遠藤 座長

ありがとうございます。今の情報提供をまとめますと、全体的にかなり厳しい状況を強いられているといえます。

特に、昨年後半以降は合板ショックのような様相を呈してきております。合板がなかなか確保できなくなっている状況です。東北地方での話ですが、我が国最大の合板メーカーがスギ4mB材を17,000円で買い取りを行い3月いっぱいには価格を維持するという報道がありました。

合板においてはかなり厳しい状況にあります。

資材の欠乏に関しても、特に原田社長よりお話のあったコンクリートの値上げというものは住宅着工に影響を与える可能性を感じております。

川下に関してはいったんここまでとさせていただきたいと思っております。

続いては川中に現在の原木生産状況や価格に加え前回9月会議からの変化並びに今後の生産体制や安定供給体制の構築に向けての取り組みについての考え等に関してご発言をいただくようにいたします。

○くまもと製材 大塚 工場長

9月からの原木価格についてですがじわじわと下がってきております。製品の生産に関しては、弊社は安定して稼働できている状況です。依然として引き合いは多く、スギの間柱に関しては新規の顧客が問い合わせをしてくるような状況です。

九州では割物や胴縁関係の動きが若干鈍くなってきているといった話を聞いております。

○外山木材株式会社 外山 常務

製品の売れ行きに関しましては、現状変わらず販売できております。9月から年末にかけて多少弱くなる場面もあったので、我々も一部製品は弱気になって数千円下げた場面もありました。

今後、1月以降の見通しとしては横ばいでもやっていけるのかなと考えております。

原木に関しましては、先ほど林野庁より話のあった通りいったん下がりましたがここにきて数百円程度値上がりしてきたように感じております。

本日、中国地方より伺った話なのですが岡山の方で柱取りのスギ丸太20, 000円という価格がついたということで信憑性の確認は取れてはおりませんがそういった話も出てきております。

今後の製品に関しては、価格が下がる要素は乏しいと判断しております。外材に関しても、様々な要因により国内へ入ってきておりませんし米国の着工も好調であるということで日本向けは中々入ってこないと想定されています。

また、国産材の業界として機械設備に投資をして増産をおこなうよう考えても機械設備に関しても2年の納期がかかるといわれております。目先についても人手不足で簡単に増産とはいかない状況になっております。

よって供給が増加しないことにより、一定の単価がキープされていくのではないかと考えられます。一方で東京の15号地には外材の在庫があるとも言われておりますのでこの部分がどう影響していくのか、3月になってからの商社投げ売り等を考えれば需給に影響を与えるかもしれません。

他の委員も述べられておりましたが、合板・住設関係がボトルネックになっておりまして着工が進んでいない今後も着工が進まないという事態も問題になってくるかと思えます。先ほどの要素がボトルネックとなり住宅が建たなくなってくると木材供給が乏しくてもちょうどいい塩梅になるという考えもあります。

○中国木材株式会社 九州事業部 林 副部長

集成材に関しては7月～9月と10月～12月に関しては1割ほど生産量を増やしております。日向集成材としては、昼と夜を問わず土曜・日曜もフルに稼働させた限界の生産体制となっております。月ベースで11, 500m³のスギ集成管柱を生産しております。これ以上の増産は難しいと判断しております。

日向工場全体の話をしてみますと、製材工場も引き続き製材量を順調に伸ばしております。しかしながら、販売状況が変化してきておりまして。全国的に無垢製品の販売は厳しくなってきておりまして、集成材製品のみ引き合いが強いという状況ですので製材をしても側から出てくる羽柄関係の用材が過剰になっている。

集成材のラミナは必要ということで、小さく製材を引き割りながらラミナを増やして集成材を間に合わせているというような状況になっております。

現在、我々業界を取り巻く環境としてベイマツを含めてお話をさせていただきます。先ほどの話にも出ましたようにアメリカのハリケーンやカナダの大雨・洪水水害の影響により11月から12月にかけて現地木材製品価格が急激に高騰し約倍増といった価格まで上昇しました。2022年1月もその流れを引きずっている状況にあります。

今後の見通しとしては、非常に予測しにくい状況ではありますが我が社が手配しているベイマツについては安定的に供給してもらえると話になっておりますので皆様が懸念されているほど供給に問題が出るとは考えておりません。

また、価格についても現在我が社においては価格を急激に上げるということは考えておりませんので安心していただきたいと思います。

販売状況からしますと、ハウスメーカーさんやビルダーさんにおいては特に分譲系を主体としている方においては受注残を多く抱えており在庫が少ないものをカバーするために非常に好調に建てていただいております。ですが、資材不足の影響により思ったより資材消費が鈍化するのではないかと考えております。

我が社としましては、在庫が増加する可能性を懸念しております。工場のフル生産に対して販売が追従できなければ生産調整を実施しなければならないのかと考えております。また、原木価格についてですが九州はある程度の価格帯で安定していると考えております。

先ほどのお話にもありました、東北の原木価格@17,000ですが昨年までは九州のみが突出して原木が高い状況でして東北は逆に安価だった状況があります。しかしながら、こういった状況の変化により全国的に同じような価格状況になるのではないかと考えております。

我々、メーカーとすると今まで東北メーカーの集成材価格が原材料価格の違いにより非常に安かったのですがこの価格が是正されて平準化した価格となればいいなと考えております。

○株式会社第三商行サンテック事業部 村杉 事業部長

秋以降の原材料仕入れに関してはそれほど不足感もなく推移しております。販売量に関しては秋口までは在庫を使いながら受注増に応えるような形で販売をしておりましてけれども販売量に関して秋口以降も引き続き引き合いが強く受注調整を現在も継続しているところです。

例年、相場が上がった時に輸入の代替として引き合いが入ったものについてはある程度の期間を過ぎれば戻るのでありますがそういった動きについて今回はそれほど見られておりません。

しかしながら、原木価格は夏場以降ピークを過ぎ徐々に価格が下がってきておりますのでこの値動きに関連してお客様からも販売価格の見直し要望が入り始めております。

ですが、原木価格以外の運送経費や接着剤価格が上昇しておりますのでこういった要素を含めたうえで価格交渉をしております。販売については、買い控え等の動きは起きていません。非常に受注は活発ではございますが、新規問い合わせは減ってきているように感じます。

○遠藤 座長

ありがとうございます。

続いては、今回の協議会においても話題になります合板分野からお話をいただければと思います。

○新栄合板工業 前田 次長

合板の販売に関しては好調が続いております。その中で、合板を含めてすべての木質面材が不足していると感じております。合板が不足しているというよりも、木質面材が不足しているというほうが正しいのではないのでしょうか。

北米での住宅着工が依然として好調な中、現地の合板・OSB価格も上昇しております。今後も当分国内生産の合板の不足は続くと感じております。

当社の生産は計画通りにできております。先日は土曜日に機械メンテナンスを行い日曜日は休業するようにしているのですが、国内の不足状況を鑑みて土曜日にも工場を稼働させております。それくらい、メーカーとしては不足を解消しようと取り組んでおります。

しかし、本州の合板工場においては国内・国外からの原木調達に非常に苦労しております。一部生産調整を行うこともあろうかと思われれます。

また、製品価格が通り始めておりますので今後は国内合板工場各社において原木価格をあげての調達に入るかと思われれます。

九州地区における原木調達については出材が好調なため当社も原木を集めやすい状況が続いております。今のところ、輸出業者さんの買いは強くないのですが、本州の合板工場が九

州へ原木を買い付けに来ているという話も出ております。
今後、原木価格は上がっていくのかなと感じております。

○遠藤 座長

貴重なお話ありがとうございます。
次に、流通分野からお話を聞きたいと思います。

○株式会社伊万里木材市場 伊東 専務取締役

流通として申し上げますと、先ほど丸太価格の話にもありました通り弊社取り扱いが2021年580,000m³となり平均価格も@14,100をマークいたしました。しかしながら、2021年はウッドショックによる暴騰の年と考えれば遡って2020年は暴落の年であったことを忘れてはいけません。

手放して喜ぶことはできませんが、価格が上昇いたしました。これは木材業界にとっては良いことになったと考えております。ですが、木材業界全体を通して考えれば全体へ恩恵があったとは言えないとも思います。

なぜなら、価格上昇の要因においては素材生産業者の不足や輸送部門の燃料費高騰なども含まれていくからです。そういった事態により現場に材はあるのに調達ができないといったこともありました。

これからの国産材を安定的かつ循環的に利用する体制を構築していくためには、川上・川中・川下が継続的に再生産と利用を行える価格帯の維持や設備投資環境の整備に取り組んでいく必要があると考えております。

○肥後木材株式会社 大城 人吉支店長

昨年9月からの状況ですが、例年通り原木価格は下落し製品価格は弱含みといった状況です。原木価格は例年値下がりが続き翌年1月くらいには入荷が減りだすのですが、今回は入荷量が激減するということなく天候も味方してか昨年以上の入荷が続いております。

9月以降に限定していけば、例年と変わらずプレカットは繁忙期に入り製品も不足し原木は値下がり局面に入るといったいつもの流れになってきております。今後の見通しはまだ難しいですが徐々に原木・製品共に値下がりしている状況です。

○熊本木材株式会社 外山 八代支店長

熊本方面は徐々に原木単価が下落傾向にあります。また、製品の売れ行きも鈍化してきております。弊社においても本社製品売り上げに関しては買方が若干弱気だったとの報告を受けております。

これから先の動向は難しい面があると思っている。私たちも原木を取り扱っているのですが、ある程度の確保はできているのですがここにきて年末から若干下がってきております。山での雪や人吉方面での水害による道路の寸断は依然として復旧していない部分もあるため減少していると思われる。

今後は情報収集を欠かさずに進めていきたいと思っている。

○ナンプ木材流通 武内 代表取締役社長

スギ・ヒノキともにピークと比べれば、だいぶ価格が下がっております。しかし、例年と比べれば依然良好な相場といえます。

特にスギは2022年に入り徐々に値上がりし始めており、値上げ相場になるのかなと感じております。集材に関しても、相場は下げとはいえ例年に比べれば良好な相場のため旺盛に出荷がっております。

旺盛とは言え、伐採業者の生産能力には限界がありますので現時点で急激に増産することはないと考えております。伐採の人手不足もさることながら、再生林に関しても作業が追い付かないといった事態になっております。

今後、伐採を行う許可に再生林の義務が付随すると考えられておりますので再生林の人手や能力の向上を行わなければ伐採は増えないと考えております。

○住友林業フォレストサービス 川畑 九州営業所長

弊社は輸出事業に関しても事業としておりますので、輸出材に関して説明できればと思います。先ほどの林野庁資料にもありましたが輸出材に関しては2021年4～5月をピークとしております。

その段階までは単価について非常に良好でした。ところが夏場にかけて急落しまして、現在輸出用丸太の取り扱いが減っております。2月の北京オリンピック以降は例年に近い形でChina側の原木需要は伸び始めるとみております。

同時に我が社では九州各地の港から内航貨物船を利用して、九州本島外の需要者へ丸太を販売しようとしておりますが外航船と同様に内航船に関しても船の手配が困難になってきております。

これはスクラップなどの金属関係需要が非常に好調で、それにつられて船の手配が厳しくなっているためであり九州外への国内販売も難しくなっている状況です。

ただ、取扱数量的には例年並みとなっております。輸出に関しても2022年4月以降は回復するとみて動いております。先ほど、新栄合板様より報告がありましたが九州外からも雪の影響で合板原木の確保をする動きがありますが内航船の手配が進まないことによって停滞しております。

船さえ確保できれば、九州外への丸太販売を行う動きがあるかもしれないという状況です。

○遠藤 座長

それでは、川中分野の最後として製紙・バイオマス分野より情報提供をお願いします。

○中越パルプ 原田 原燃料部長

製紙に関しては2021年については前年よりもパルプ材の集荷・販売共に1割ほど増加いたしました。

自社工場においても1割ともすればそれ以上の集荷及び消費で推移しております。輸入材・国産材の両方を使用しておりますが国産材に関しては需要の回復にもあわせ、集荷も増やしていますが供給余力が十分という状況ではありません。

元来、アメリカ等から輸入してくる原料に関して余裕があったわけではないので国産材チップ（針葉樹スギ等）を増加させることを検討しています。

一方、広葉樹に関してですが昨今のウッドショックによる木材価格の上昇を受けた針葉樹生産が活発なことにより広葉樹チップに関してはあまり期待できない状況にあります。広葉樹も積極的に使用したい考えがあるのでどうすれば山から更に出てくるのか今後は検討していきたいと考えております。

バイオマス発電に関しては、燃料使用量については順調で発電量も安定しております。我々は原木を直接購入しているわけではなく、チップ工場から購入させていただいているのですがチップに関しては毎月なんとか出荷していただいておりますがチップ工場の原木は引き続き地域によっては厳しいところもあるのかなと考えております。

さきほど輸出材の話でだいぶ落ち着いたと話があったので多少はチップの方に帰ってきた分があるかとは思いますが相対的にはまだまだ原木在庫を積み増すことができるような状態にはなっていないと考えております。

○グリーン発電大分 水田 部長

昨年の夏場にウッドショックが発生しまして我々としても苦しい思いをしました。私共には発電所へ燃料を供給する協議会といったものがあり全部で38社により構成されています。その会員が間伐材由来も含める32円材というものを生産しておりますして夏場は大変厳しい時期でございました。

厳しさの要因としてはデータから考えましてもかなり輸出に流れていたことが理由となっております。

輸出材は港につけて@12,000に対して発電に関しては正式な証明と併せて工場着@7,000なのでかなり輸出に流れていました。しかし、9月以降輸出が下火になりましてバイオマス燃料としては順調に搬入をいただいております。

月に7,000~8,000トンの供給を受け事業を行っているのですが、昨年の夏場は4,500トンと5,000トンを下回るような状態で在庫を切り崩して対応していました。今年についても7月くらいから昨年のような供給が不足するといった情報もあるため、現時点から協議会メンバーへ呼びかけを行う必要があると考えています。

現在、毎日300~400トン近くは搬入されてきておりますが今の状況に甘んじることなく在庫を適正に確保するようにしております。私どもに供給される木材の96%は、間伐由来となりますので証明を確実にできるように取り組んでいます。

今現在の入荷は順調に行えておりますが、今後は不安視する面もあるため情報収集をしっかりと行うようにしたいと考えています。

○遠藤 座長

ありがとうございました。

建材関連工場では、フル稼働で生産が行われている。原木の調達に関しては、まずまず順調に調達できているという一方で一部では不足感が生じているようです。

依然として外材の動向が不透明ですので、今後も情報の収集と共有が重要と考えられます。続いては、前回ボトルネックとなっていました川上の状況に関して秋から冬の生産状況並びに今後の生産見込みと森林所有者の反応や状況、これまで安いといわれていた立木・原木価格がウッドショックを経て販売価格が改善されたことにより木材の適正価格といった分野に意見をいただくようお願いします。

○林野庁 九州森林管理局 小島 局長

国有林の状況報告に先立ち、今までの議論において出された各委員の意見に関してお話をさせていただきたい。

冒頭の林会長挨拶に、今回のウッドショックを契機として需要者であるハウスメーカーなどの皆様に意識の変化が出てきている。この意識変化を契機に川上側への利益還元ができるサプライチェーンあるいは循環型の林業を作っていくことが大切であるとのことご発言がありました。

これにつきましては、川上側である我々としても心強いご発言であったと思います。国有林としても、これから地域の安定供給に向けた取組みをしっかりと進めていきたいと考えております。

具体的には素材生産の計画的な発注と私どもが四半期ごとに実施する供給調整検討委員会において、地域の需給情報を踏まえた国有林の取組みなどを民有林の川上側の皆様に対しても今後の素材生産についての参考となるような情報発信をしっかりと実施したいと考えております。

そして、国産材について一時的な輸入材の代替ではなく、今後も継続して利用していただくように取り組んでいきたいと思っております。

そうした中で、川中・川下の皆さんにもご認識いただきたいこととして国有林は今森林資源について充実しておりますけれども先ほど数名の委員よりご発言いただきましたが素材生産量に関しては限界があります。

具体的には、しっかりと再生林を確保していくことも必要ですし、山に資源があっても道が無ければ素材生産はできません。こういった再生林に向けた人や予算の確保、路網の整備にも時間がかかるため、国有林についても資源はありますが需要に応えていくだけでも増産できるものではないということを改めてご認識いただければと思います。

こういった状況を踏まえたうえで、国有林としても安定供給に向けた取組をしっかりと進

めていきたいと考えております。これまでの取組につきまして、井上地域木材情報分析官からご報告をさせていただきます。

○林野庁 九州森林管理局 井上地域木材情報分析官

国有林からの木材供給につきまして、国有林木材供給調整検討委員会の委員の皆様方のご意見を伺いながら供給をさせていただいております。

今年につきましては、ご存じの通りウッドショックというような事態でございましたので年間計画を前倒して供給に取り組んでいるところでございます。今後につきましても、市況動向を見ながら、また関係業界の皆様のご意見を聞きながら取組を進めてまいりたいと考えております。

○福岡県森林組合連合会 諏訪田 事業課長

先ほどナンプ木材流通さんがおっしゃられたように、2021年夏をピークに材価はどんどん下がってきております。この下げ傾向がどこまで下がるかと考えておりましたが、昨年11月くらいからまた材価が少し戻しまして今現在まで横ばいの状況にあります。

先ほど担い手の問題も出まして、伐採の意思があってもなかなか伐採ができないことや伐ったからには植えなければならないが手が足りないということが問題になってきているのかと思います。

運搬の方に関しましても、トラックの台数について福岡近辺は台数が少ないこともございまして取り合いのような状況が続いております。

直近の市場の状況を申しますと、スギ4m柱材(14cm~16cm)が一番の高値で約@20,000程度で取引されております。

○長崎県森林組合連合会 草野 業務部業務指導課 係長

価格に関しては、ウッドショックがピークであった時期に比べれば下がってはおります。ですが、ウッドショック前に比べれば高い水準で維持している状態です。

長崎に関しては、協定価格で販売をしているので協定価格の維持に注力いただければと考えております。

○熊本県森林組合連合会 三原 代表理事専務

熊本県におきましても森林組合系統の木材価格につきましては他県と同様にウッドショック後の8月以降は若干下がりつつあって年前からは平行な金額で進んでいる状況にあります。令和3年1月から12月までの森林組合系統木材取り扱いについては、令和2年度と比較して15%の増加となり令和元年度と比べましても10%増となっております。

組合系統の木材取り扱いには確実に増加してきております。しかしながら、喫緊の12月取扱量だけで見ますと令和元年12月取扱量とほぼ同数でございまして木材の数量はそれほど変わらず出てくるのではないかと考えております。

理由としては、森林所有者さんは木材価格が上がっていることを認識しておりますので森林組合へ伐ってほしいという要望は来ております。しかしながら、森林組合としては高い値段で購入してしまうと今後の行き先となる木材価格の動向が不透明であるので積極的に伐採へ入れない部分もあろうかと思っております。

加えて、担い手不足もあるため思ったように伐れないということで平年並みの木材生産となっていると思われます。

ですが、木材価格は相当程度戻ってきておりますので森林所有者並びに森林組合の運営につきましては良い単価により良い傾向がもたらされていると感じます。

○南那珂森林組合 河野 事業部長

先ほどよりお話を上がります通り価格で申しますと、秋ごろより徐々に下がり相場ではあったのですがここにきて初市では数百円でしたが値戻しがあったように思います。

伐採量から申しますと、例年並みとなっております。素材生産量を伸ばそうと思えば伸ば

せるのですが、そのあとの再造林と下刈りを考えますと今の伐採量が組合のマックスキャパシティとなっておりますのでここを伸ばさなければ生産量を伸ばすことは難しいと思います。

森林所有者さんも価格が上がっていることは重々承知されているので、伐採を組合に要望されますものでこの要望をどのタイミングまで今の単価で購入していくのかといったことを考える時期に来ていると思っています。

○佐伯広域森林組合 今山 参事

私どもの原木市場では、平均価格に関しては令和3年11月に@12,000前半まで下落いたしました。それから12月・1月と市を実施しましたが基本的に横ばいという価格に来ております。

先ほどからのご説明にありましたが少し弱いのが輸出材かと思っております。ウッドショック前とまでは言いませんが、輸出材級のグレードに関してはほぼそれ位の価格に戻ってきております。

後は、取扱量に関しましては一昨年九州を襲いました菊池豪雨の直後より我々はフル生産という形で継続的に実施しております。そのため、取扱量に関しては急激に増加したとか減少したとかはございません。

月に原木市場取扱量で10,000～15,000m³の間をキープしております。私どもの管内ではこういった状況にあります。

○遠藤 座長

佐伯広域森林組合さんは大規模な製材工場を運営されておりますが、先ほどの林野庁説明にもありました通り製材品価格は比較的高値安定となっております。そういった中で、原木価格が下がり始めた理由は为什么呢。

○佐伯広域森林組合 今山 参事

製品価格に関してですが、ウッドショックのピークからすると若干下げ交渉が行われております。下げ交渉のネタの中に先ほどより言われている原木相場の下げがあげられます。

では、なぜ原木が下がっているのかに関してですが私どもの管内としては原木が供給過多気味になっているように感じます。市売りにも沢山の出品があり、市後にも多くの入荷がある状況を皆さん見てらっしゃるので購入に際して焦りはありません。

その中で、例えば3mが急に価格上昇したとか4mの価格が下がったとかが発生する理由は単純に需要と供給のバランスなのかと思えます。原木価格が高くなると、多くの方が4m造材を志向します。すると、3mが不足して3m材が高騰する3m材の出材が増加して供給過多になり3m価格が下がるといったループを繰り返すようなことがあります。

つまり、全体的な原木供給が過多気味になりそういったループが発生しているのではないかと危惧しております。

製材品の価格がそういった原木のループに引き回されないように取り組まなければならないと考えております。

○鹿児島県素材生産協同組合連合会 神園 事業部長

林業事業体の動向ですが、事業体の出材数量に関しては連合会では把握しておりませんので行政の発表から報告いたしますが昨年秋以降で申しますと一市3,000m³くらい集荷して市をするような市場に5,000～6,000m³も材が出てきたと聞いております。

そういった話を聞けば鹿児島県内の素材生産量は、増加したものと考えられます。事業体の方につきましては単価を追いかけますので昨年のウッドショックによる用材単価につられて山を仕立てていったという後追いに近い形で生産が盛り上がってきています。

山を伐採しますと欲しいところのA材だけではなくB・C・D材も出てきます。それで特にC材のところは輸出・バイオマス・製紙用チップの需要があります。その中でもバイオマスは認証の関係もございましてなんでも主伐ができるというわけではなく経営計画に入ったもの

でなければなりません。

材がひっ迫しているのであればA・B材は心配がないのですがC・D材はそういった部分がございます。輸出が戻っているという話がありましたが、逆に輸出が好調な時はバイオマス用材が足りないということもありました。

こういったことは価格差で起きるものです。各地域の森林組合さんも含めて1円でも高いところに持って行くというスタンスがありましてそういう形で協議会等もありますが山の収支というものは厳しいものがございまして特に高性能林業機械を抱えた事業者は厳しいものがあります。

仕事を途切れさせるわけにはいかないことや、手元の利益を優先することもございましてどうしても高いところに材は流れていきます。その結果、チップ工場は困ってしまう。こういったことから、チップ工場は過去に例がないほど材が入らなくなっておりまして輸出も適正なラインで進めていただければと思うところもございます。

広葉樹の生産につきましては、先ほどお話した高性能林業機械を導入してしまっただけでは広葉樹生産に戻れないという図式があります。広葉樹では月々の高性能林業機械導入費用の返済ができなくなります。

そういった状況でどうやって材を集めていくのか考えていく必要があると思います。特にC材分野のチップ工場さんやバイオマス発電所さんに関しては、欲しい材を集めるためには協議会の強化であるとか山を買って自分で伐採するといった分野に入っていく必要があるように感じます。

ウッドショックの単価は、山の生産に対しかなり回復させるような単価になっておりました。できればこの水準で推移していければと思っております。そのためには、住宅や合板が安定的に国産材を使うような状況を作っていければよいなと思っております。

○遠藤 座長

原木流通からもうひとかた、木協産業さんお願いいたします。

○木協産業 山下 専務取締役

我々としては木材製品の販売が地場産業特に地元のハウスメーカーさんにプレカットを通じて販売しているものですから今度のウッドショック、特に外材に関してはあまり地域的に使用が多い地域ではないものですから影響は遅れてやってきます。

製品の値上げに関してもやっと秋口以降上がってきたような状況にあります。そのため、今現在もそれほど製品の動きは悪くありません。ただ、原木入荷に関しても昨年度グルー全体で23万m³ほど取り扱いましたが順調に原木も入ってきておりました。

その中で、心配しているのが立木の買付です。これが非常に難しくなっている。特に国有林の立木購買に関してですが入札にかかっているが中々条件に叶うような山が無い。それにより落札する物件が非常に少なくなっています。

たまにいい物件、出しが良いとか木が良い山になると極端に高値になるといったことが続いています。それと、民間の山も買い付けをしておりますが持ち主の不在によりうまくいかない。そして境界がわからない、隣の所有者がわかっても現地で見ただけの方が非常に少ないということで山自体はあるにはあるが条件がそろわない山がなかなか出てこない。

自社でも年間30,000~35,000m³生産していますが立木在庫が持てない状態です。だいたい買い付けで1年分くらいの在庫は持っていたのですが、今はもう2~3か月分の在庫に落ちてしまった。

今後は立木買い付けがもっと厳しくなるのかと思っております。それと、地場産業である住宅着工戸数というものは宮崎県内でそれほど落ちてはおりませんので今後極端に増えることもなければ極端に落ちることもないのかと思っております。

その中でも動きが良かったのは牛舎関係で、牛舎関係の建築は減ることが無く今年の3月まで受注が入っておりますのでそういったものを含めて考えますとプレカットの受注もそれほど悪くないといえます。

○遠藤 座長

本日は宮崎大学の藤掛先生もご出席いただいております。これまでの意見交換に関して、コメントをいただけますでしょうか。

○宮崎大学 藤掛 教授

大変参考になりました。

例えば、丸太の価格がずっと上がっていたのが下落し始めたということが今後どういった動きになるのかが一番気になるころではあるのですが今日のお話を聞いていますと外材など大きな環境から少しウッドショック時よりは変わってきています。

ですが、価格は依然高いままというところではあります。長期的には、今回のウッドショックは短期的なものを含むとは思いますが国産材にどれほどこれまで外材に流れていた需要が返ってくるのかということと国際的な木材価格の市場がどれほどの金額で安定していくのかはまだ不明のところがございます。

長期的には、スギの丸太価格などに影響してくると思いますがこういったことはまだ見通せないところがございます。短期的には製材所と素材生産業者さんの間にある丸太の需要と供給の部分で価格が決まってくるのでその中では今少し製材所が挽く丸太に対して生産が上回っているため価格が落ちるか安定化のどちらかになると思います。

何人かの委員がおっしゃられました。1月の状況は5月～6月まで続くといった風潮が毎年のごとくです。ですのでしばらくの間は丸太が十分に出てきて弱含みではないかと思えます。

それを越えて更に長期的になれば、ウッドショック時に国産材がどれほど外材を置き換えられたかが重要になってくるのではないかと思います。そのあたりがどれくらい進むのかを注視したいと考えております。

そういう意味では九州も集成化やKD化といった流れにもっと対応しなければなりませんし、流通も関東関西に流れる分が増えるかもしれませんしそういうところが九州の素材価格や流木価格に影響しだすのかなと思えました。

○遠藤 座長

座長としての簡単な総括ですが、昔G3という言葉がありました。

アメリカ合衆国・西ドイツ・日本がG3といわれておりました。かつて日本は超経済大国でありました。残念ながら、今現在円の価値は下がり始めております。これは国力が低下し始めたということになります。

この状況を見て、なかなか外材が入ってこないことも考えられます。環太平洋において経済をけん引しているのは米中2国でありますので2国間の蚊帳の外に置かれた状況にあります。

こういった事情が今回のウッドショックにより鮮明になったと思われれます。そんな中、我々は好むと好まざるにかかわらず国内にある1,000万ヘクタールある人工林を生産基盤として林業を組み立てていかなければ木材住宅はなくなり木材産業もなくなると思う。

そういった中において、今回のウッドショックにより人工林経営を持続可能なものとして動かしていく際の丸太平均価格がいくらくらいなのかという少々突っ込んだ議論もしていかなければウッドショック終息後あれは何だったのかというような結果に終わってしまう。

今回、改めて国産材の安定供給とは何なのかといった分野についてより鮮明になったものと考えております。

最後に林野庁計画課よりウッドショックへの対応を含めた、林野庁のお考えや対応に関して計画課から説明をお願いいたします。

○林野庁 計画課 川本 様

今年度補正予算に関して説明。

○遠藤 座長

ありがとうございました。

昨年の新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言から需給変動が激しく続いております。この需給情報連絡協議会もこれまで以上の頻度で開催されました。

活発な意見交換がされまして、現在の状況を把握して今後の指針をたてられるような会となったと思います。

これを持ちまして、司会を事務局にお返しいたします。

○吉村 事務局

お忙しいところ委員各位におかれましてはご参加いただき誠にありがとうございます。

本協議会の議事に関しましては早期にとりまとめ林野庁ホームページにて公開させていただくようにいたします。

これを持ちまして令和3年度第3回九州地区需給情報連絡協議会を終了いたします。

(以上)